

終戦直後の カストリ雑誌 の総合的研究

研究年度・期間：平成17年度

研究ディレクター：山 縣 熙
(文芸学科 教授)

共同研究者：松井 桂三 (デザイン学科 教授) 藪 亨 (教養課程 教授) 田中 敏雄 (教養課程 教授) 豊原 正智 (芸術計画学科 教授) 井関 和代 (工芸学科 教授)

月溪 恒子 (音楽学科 教授) 山形 政昭 (建築学科 教授) 出口 逸平 (文芸学科 助教授)

第二次世界大戦の飢えと混乱の時代には、「カストリ雑誌」と称された大衆娯楽雑誌が、出版の自由に乗じて巷に約千種類も出現し、大衆文化の新しい領域を開いている。これらの雑誌の特徴のひとつは、直接に性風俗を取り扱っているところにあり、著名なそしてまた後によく知られることになる文芸作家や挿絵画家も性風俗をモチーフにした本文や挿絵・漫画をしばしば掲載している。本研究は、こうした「カストリ雑誌」を、文芸、美術、デザイン、工芸、建築、映画、音楽などの多角的な視座から個別的に、また社会文化史的に調査研究するとともに、その芸術文化史的な意味を理論・批評・歴史等の視点から総合的に考察することを目的とする。また本共同研究は、本学大学院・芸術研究科のカリキュラムに プロジェクト研究 研究課題として組み込まれ、教員・院生が一体となって研究するという新しい教育研究方法の試みをなすとともに、研究の経過ならびに成果を同時に学内外に向けて積極的に情報発信するものである。

本共同研究は3年計画からなっており、本年度はその初年度であった。そのために教員(9名)と大学院生(修士課程14名、博士課程6名)からなるプロジェクトチームが組織され、毎週金曜日5時限に研究会が開かれた。そして、次の三つの見地からカストリ雑誌の調査・研究が進められた。

- 1) 週刊読物誌、風俗誌などと「カストリ雑誌」との関係や、文芸誌、一般文化誌などと「カストリ雑誌」との関係を調査研究するとともに、これらに掲載された文芸作品や挿絵を調査研究し、占領下における芸術家たちの活動に照明をあてた。
- 2) 音楽・舞踏・演劇・映画に関する雑誌群と「カストリ雑誌」との関係の在り様について調査研究するとともに、占領期の大衆文化の実相について考察を進めた。
- 3) 美術・工芸・建築・写真・デザインに関する専門雑誌群と「カストリ雑誌」との関係を調査研究するとともに、占領期の美術とデザインの動向について考察を進めた。

その際上記いずれの場合にも、米国メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫雑誌コレクション」(1945～49年に日本で出版されたほぼ全ての雑誌を収録)マイクロ・フィッシュ版の「一般誌部門、芸術・言語・文学部門、小冊子分類70番」(本学図書館所蔵)を調査・研究した。

さらにはカストリ雑誌関係書誌（20冊）およびカストリ雑誌（411冊）を購入し調査・研究するとともに、本研究に必要な関連資料を購入した。またさらにデーター解析装置を購入し、「カストリ雑誌」研究のデーター・ベースの構築を推進した。

そしてその成果の一端を、『終戦直後の大衆娯楽雑誌 初期カストリ雑誌・表紙展』と題して大阪芸術大学図書館・秋の所蔵品展（平成17年9月13日～10月5日）で公開した。初期カストリ雑誌の表紙群はそれまで秘められてきた性を公然化するものであっても、既成のタイポグラフィ的な枠組みをまだ堅持していたが、昭和22年頃から直接的に肉欲的な図像が駆使され、カストリ雑誌のイメージに合致する表紙デザインが続出している。この所蔵品展では、こうした初期カストリ雑誌の状況に照明が当てられた。またこの所蔵品展の趣旨については、大阪芸術大学グループ通信・第57号（2005年12月）に報告記事を掲載した。

さらには本年度の研究成果を以下の研究グループ課題に基づいて研究報告書を作成した。

- (1) 山縣グループ 1、カストリ雑誌に見られる性表現の諸相 2、カストリ雑誌とジェンダー 3、カストリ雑誌のタイトルの調査・研究 4、戦時文化と戦後文化 5、カストリ雑誌の社会文化史的的位置 6、戦後民主主義とカストリ雑誌
- (2) 松井グループ 1、現代版カストリ雑誌の制作 2、カストリ雑誌とファッション
- (3) 藪・井関グループ 1、カストリ雑誌におけるタイポグラフィック・デザインの変容 2、カストリ雑誌における広告とその表現法 3、本年度収集カストリ雑誌の書誌一覧
- (4) 田中グループ 1、カストリ雑誌における外国文化の受容 2、カストリ雑誌の挿絵 3、カストリ雑誌とアヴァンギャルド
- (5) 豊原・出口グループ 1、カストリ雑誌における映画・演劇・写真
- (6) 山形グループ 1、建築・住環境などの問題
- (7) 月溪グループ 1、音楽関係の問題